

コンポスターバケツを使った生ごみ処理

～実験キエー口編～

キエー口とは？

庭先やベランダで手軽にできる生ごみ処理の方法です。土に穴を掘って生ごみを入れ、土と混ぜてかぶせておくだけで、土の中の微生物が生ごみを分解してくれます。電気などのエネルギーを使わず、自然の力で生ごみを水や二酸化炭素に分解するため、環境にやさしい仕組みです。

コンポスターバケツを受け取り後

1. 容器、フタ、排水栓にひび割れや破損がないか確認してください。不具合があれば交換します。
フタは持ち手を下に倒して、中央部を押さえながら開けると簡単に開けることができます。
2. 最初は「黒土」でお試ください。1袋 14L で販売されています。
3. 容器から土がこぼれ出ないように、排水栓を取り付けます。（底網は中に入れません。）
4. 2つの容器に半分ずつ「黒土」を入れると「実験用キエー口」が完成します。

準備するもの

- ・シャベル（植栽用スコップ）
- ・水（生ごみの水分が足りない場合に補充します。必要に応じて用意します。）

使用方法

1. 穴を掘る：上から約 5 cmの土^(※)を取り出して保存し、更に約 15 cmの穴を掘ります。
2. 穴に生ごみを入れる：穴に入れる生ごみの量は三角コーナー1杯(約 300g)が目安です。
3. 混ぜる：生ごみを突いて細かくしながら土と混ぜて、土団子程度の硬さの水分量にする。
4. 土をかぶせる：混ぜた生ごみが表面に出ないように、取り出し保管しておいた土[※]をかぶせます。
5. フタをする：好気性微生物の働きを利用するため、フタは密閉しません。

使用上の注意点

- ・ **設置場所：**日当たりと風通しの良い屋外(ベランダも可)に置いてください。
- ・ **分解できるもの、できないもの：**
 - ◎ 分解が早いもの：調理済みの野菜、肉、食用油、みそ汁、カレー、マヨネーズ、ヨーグルトなど
 - △ 分解に時間がかかるもの：加熱していない少し硬い生野菜の芯や葉、柑橘類の皮、小さな骨など
 - × 分解できないもの：大きな骨、卵の殻、貝殻、玉ねぎの皮、枝豆の殻、梅干し・桃の種など
- ・ **その他：**
 - 野菜などは細かく切ると分解が早くなります。
 - 汁気や水分が多い生ごみは、水分量を控える等、調整してください。
 - 生ごみを入れる容器は交互に使います。
 - 夏の生ごみの処理期間は4～5日程度が目安、様子を見ながら入れる間隔を決めましょう。
 - 入れる間隔が適当でないと、前に埋めた生ごみが残って分解不良の原因になります。
 - 入れるタイミングに合わない生ごみは、無理せずゴミ収集に出しましょう。
 - 利用中の容器の修繕や、利用後廃棄などは、配布を受けた方自身でご対応ください。